

競技種目

1. 【 応急手当競技 】
2. 【 避難誘導競技 】
3. 【 災害救助競技 】

1. 【応急手当競技】

〈ねらい〉

事故現場では自分達の仲間を助け、またその場に居合わせた第三者にも救助の手をさしのべなくてはならない場合もあります。この競技では、まず仲間にロープを投げて救助した後、その場に
いる傷病者の手当を行うという設定です。

〈競技解説〉 競技者は4名

第1のゾーン：ロープレスキュー

- ・ロープが置いてある側に1名。対岸に3名が縦列で待機して先頭の者は指定されたエリアに座って救助を要請する。
- ・第1救助者はスタートの合図でロープの先端に「もやい結び」で輪を作り、末端に「8の字結び」でコブを作った上でコイル状にする。
- ・救助に際してロープは下手投げに統一し、要救助者に対しては的確な指示を出してロープを装着させ、安全なスピードで引かなければならない
- ・ロープの投下は1人3回までとし、3回目も失敗した場合は審判が代わりにロープを相手に渡してそこから再開。また投下に際しロープそのものを手放してしまった場合は失格とする
- ・並んでいる先頭から救助され、救助された選手が次の救助者になり以下全員救助されるまでローテーションしていく。
- ・先に救助された者は直接ロープ投下または牽引する以外の補助はして構わない

第2のゾーン：応急手当

- ・傷病者の傷病部位に応じた手当を行う。手当は「チームで」行い、手当の早い者は、他の手当を手伝う等も可。
- ・手当完了後、全員がゴールを通過した時点で競技終了（時間制限あり）

〈会場設定〉

- ・競技前にクジを引きポジションを決める。
- ・応急手当の傷病者は、空いているチーム（4名）から選出する。
- ・傷病部位には目印となるテープを貼っておく。三角巾とガーゼは、傷病者のいる付近にまとめて置いておく。
- ・審判は1チーム1名。ゾーン毎に担当チームについていき順次採点。
競技終了後、簡潔に講評を与える

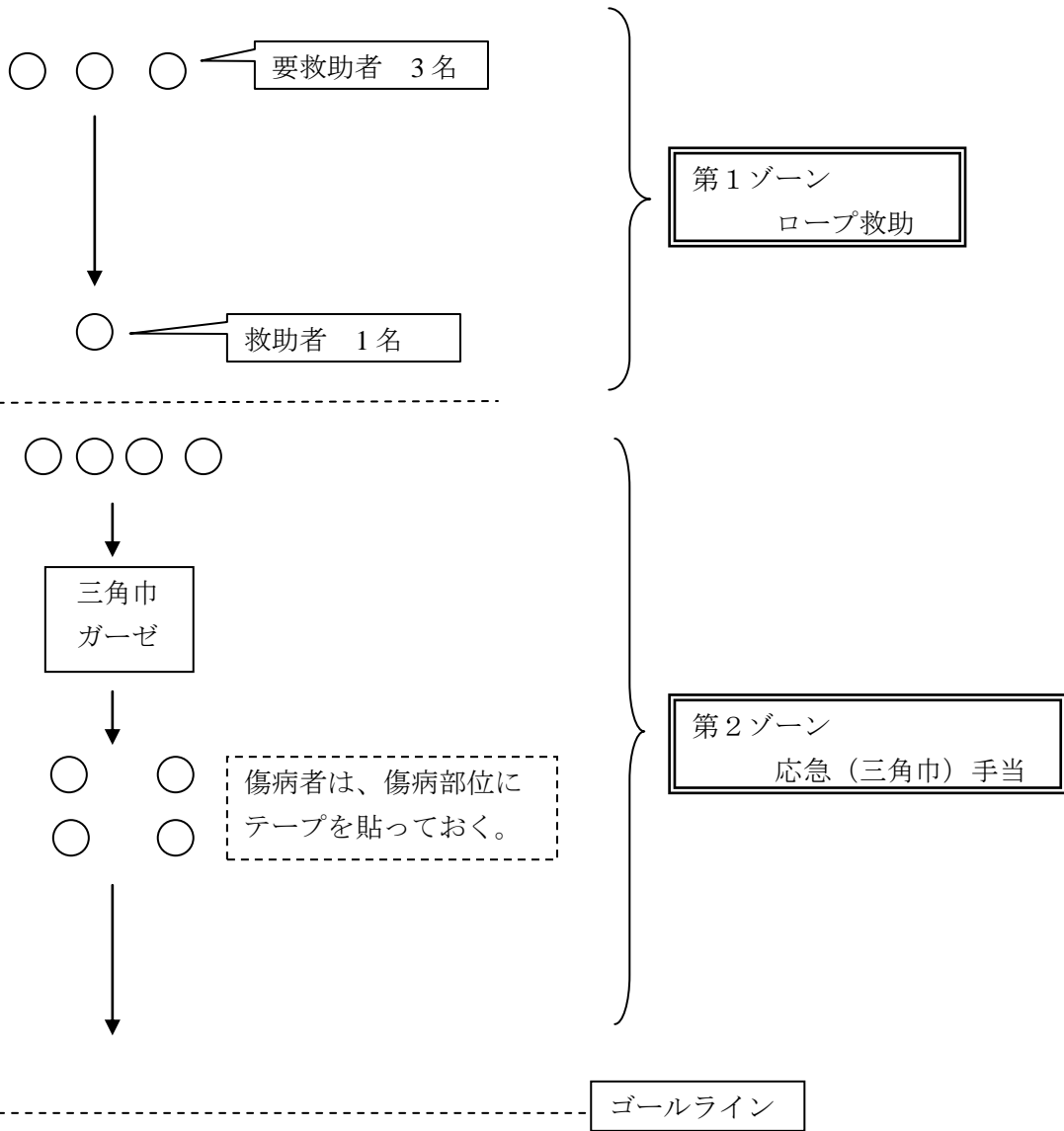
〈資材〉

- ・エリア分けテープとコーン ・ポジション分けのクジ
- ・ロープ 参加時1チームにつき1本（概ね10メートル）
- ・三角巾とガーゼ 数セット

〈必要実技〉

- ・傷の手当（包帯法）

〈競技形式〉



2. 【避難誘導競技】

〈ねらい〉

「道に迷うと同じところをぐるぐる回る」と昔から言い伝えられていますが、事故や災害で視界が遮られたり情報が錯綜する中でも正しい避難ルートを見つけ出すのは容易ではありません。競技中は周囲の声（雑音、ニセ情報）が入り乱れます。仲間の誘導を頼りに、持ち帰るべき「お宝」を確保しながら暗闇の世界から脱出を急ぎます。

〈競技解説〉

- ・ 競技者は4名
- ・ 競技前に番号クジを引き、誘導者1名、競技者3名を選ぶ。
- ・ 競技者3名は座った状態で渡されたアイマスクを装着する。
- ・ 誘導者は、「宝」をコース内に投げ込む。
- ・ スタートの合図とともに立ち上がり、誘導者の誘導に従い、「宝」を拾いながらゴールを目指す。※途中、安全上の理由でスタッフに止められる場合もある
- ・ ゴールインが知らされたら競技終了。各自でアイマスクをはずす

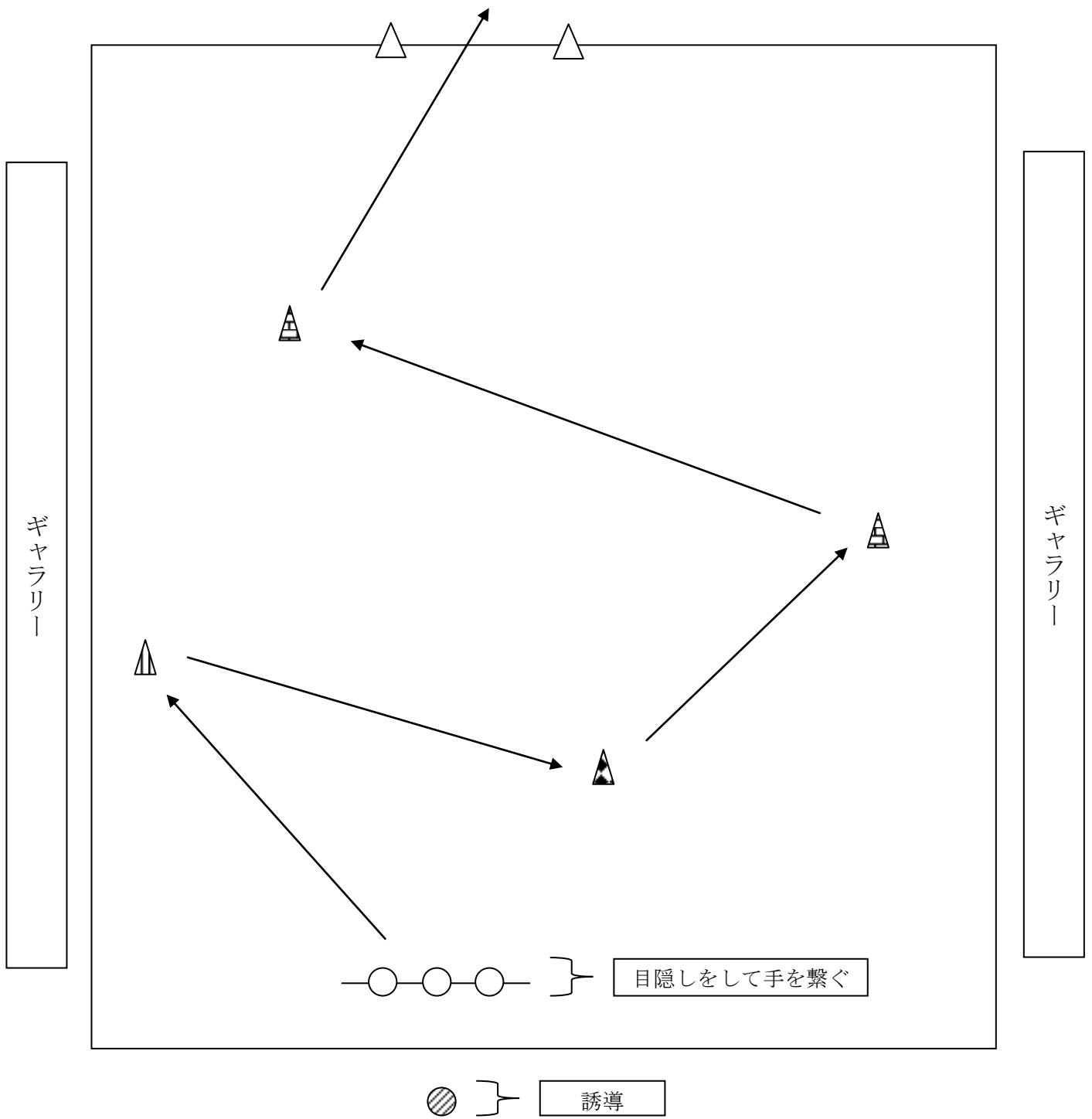
〈会場設定〉

- ・ 1チームにつき審判は1名。アイマスクを渡し、スタートからゴールまで付き添いながら採点。
- ・ エリア外の観客からの声援や偽誘導については自由とする
- ・ 時間制限あり。誘導者には審判から時間経過を随時知らせる。

〈資材〉

- ・ エリア分けテープとコーン
- ・ アイマスク 出場時に1チーム×3
- ・ 「宝」（※ボールなど）
- ・ 役割を決めるくじ
- ・ コース設定用のメジャー

〈会場形式〉



3. 【 災害救助競技 】

〈ねらい〉

もし傷病者が散在する災害現場に自分たちが遭遇したら・・・。

個々の手当もチームとしての関係ができれば、重・軽傷への対応や協力者の活用などによってより効率的な救助が可能になります。

立ち止まり、近寄って。痛みと不安に打ちのめされている相手には、あなたの優しい笑顔が何よりの救急法であることを忘れないでください。

〈競技解説〉

- ・ 競技者は4名。競技前には会場の外で待機
- ・ スタートの合図で会場に入りチームで救助に当たる。なお「協力者」が必要であれば観客席に呼びかけて確保してよい（※2名まで可能）
- ・ 手当は競技エリアで済ませ、その際に自分が手当した相手の「氏名」「学校」「学年」を聞き出しておく。（観察上も大切だが交流の上でも大切）
- ・ ゴールラインの外側を救護エリアとし、全ての傷病者を運び入れた後、審判の指示を待って競技終了。（※時間制限あり）

〈会場設定〉

- ・ 予めスタッフ側で傷病者のパターンを決めておく
- ・ 競技前に本部から指名されたチーム（4名）は「傷病者」として協力する
- ・ スタッフ（教員）2名は「協力者」として、「善意はあるが手技は知らない」という設定で観客席にまぎれており、要請があれば参加する
- ・ 各競技エリアの外側に救助資材を置いておく
- ・ 審判は各傷病者につき1名、その他1名は全体を統括する

〈資材〉

- ・ エリア分けテープとコーン
- ・ 蘇生法訓練人形 参加時1チームにつき1体
- ・ 救助資材 参加時1チームにつき1セット
- ・ 傷病者のパターンを指定したカード 数種類

〈実用実技〉

- ・ 傷、骨折、捻挫、体位変換、回復体位、保温、搬送など一次救命処置や応急手当

〈会場形式〉

